



**越後平野における
生態系ネットワーク形成全体構想
(概要版)**

越後平野の生態系ネットワークについて

令和元年に「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」を設立しました。協議会では、ガン類・ハクチョウ類・トキを指標種とした越後平野における生態系ネットワークの目標に向けた取組の進捗確認、また、全体構想に基づいた行動計画を策定し、事業を推進していきます。全体構想・行動計画は、取組状況や社会状況に応じて、変更・更新を行います。また、関係機関担当者による連絡調整や情報交換を行う連絡会を、必要に応じて開催します。

実践的な取組のための部会は、生息環境の検討と自然環境の活用を取組のテーマとし、有識者や地域の関係主体が参加する具体的な取組の検討・実施を進める場として令和4年度に設置しました。

越後平野（新潟平野）は、信濃川や阿賀野川といった大きな河川により運ばれてきた土砂が堆積してできた沖積平野（ちゅうせきへいや）です（新潟市「潟のデジタル博物館」より）。

越後平野には政令指定都市である新潟市等、多くの市町村が含まれる、本州日本海沿岸で最大の平野です。流域の土地利用としては水田等の農地が大部分を占めますが、信濃川河口域をはじめ、各所に都市環境が広がります。

実施体制

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会

(年1回開催)

構成: 学識者、市民団体、市町村、新潟県、環境省、農林水産省、国土交通省

ハード面の取組み: 各主体が実施する生物多様性の保全・配慮の取組みを尊重しつつ、全体構想の策定など方向性を設定し推進する。

ソフト面の取組み: 情報の共有や発信、環境調査、普及啓発活動、イベント等について、連携・協働して推進する。

連絡会

自然環境活用部会

(年2回程度開催、行動計画策定後1回開催)

目的: 指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした経済の活性化、地域に関することについて検討を行う

生息環境検討部会

(年2回開催、行動計画策定後1回開催)

目的: 指標種の生息環境の保全、再生及び創出に関することについて検討を行う



第1回 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会



第1回自然環境活用部会



第1回生息環境検討部会

越後平野における生態系ネットワーク形成全体構想

全体構想は、越後平野においてガン類・ハクチョウ類・トキを指標種とした生態系ネットワークを形成するために、基盤となる生息環境・生育環境・繁殖環境の保全・再生と良好な水辺を活かした地域振興・経済活性化という2つの基本方針と、短期目標・中期目標・到達目標の3つの時間軸に沿った目標を定め、それに向けた取組の考え方と推進体制を示しています。

なお、当全体構想は、2050年の到達目標に向けた息の長い取組となっています。このため、今後、国内外の情勢や関連する計画の更新状況などにあわせて、全体構想についても、時代に合った形へと適宜更新を図っていきます。

令和5年1月版 越後平野における生態系ネットワーク形成全体構想 【案】 令和5年 月 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会	目次 はじめに..... 1 【有事】 1. 生態系ネットワークの基本的な考え方..... 2 (1) 生態系ネットワークと形成により期待されること..... 3 (2) 生態系ネットワークの形成を通じた社会資本整備や土地利用..... 3 (3) 全体構想の位置づけ..... 4 (4) 対象地域..... 4 【現状】 2. 越後平野の概要と大型水鳥..... 5 (1) 越後平野について..... 5 (2) 越後平野における指標種..... 5 【課題】 3. 越後平野における課題..... 17 (1) 指標種の生息環境に関する課題..... 17 (2) 地域振興におけるシンボルとしての指標種の活用に関する課題..... 18 【方針・目標】 4. 越後平野生態系ネットワークの方針・目標..... 19 (1) 生態系ネットワーク形成の基本方針..... 19 (2) 短期目標（2025年）、中期目標（2030年）、到達目標（2050年）..... 20 【取組】 5. 越後平野生態系ネットワークの形成に関する取組..... 24 (1) 生息環境に関する取組..... 24 (2) 地域振興・地域活性化に関する取組..... 25 (3) 越後平野生態系ネットワーク構築..... 28 【推進体制】 6. 越後平野生態系ネットワークの推進体制..... 29 (1) 多様な主体との連携・協働体制..... 29 (2) 行動計画..... 29 出典 用語解説 資料編	はじめに 私たちの身の周りには、森林、河川、農地、海などさまざまな環境が広がっています。それぞれの環境は独立して存在するのではなく、有機的・無機的に複雑につながっています。国土交通省は、1990年代から生物多様性保全の観点から「多自然型川づくり」の推進を図ってきましたが、川づくりに欠かせない周辺環境との有機的つながりに対する配慮が十分とはいえません。そこでこの経験を踏まえ、次のステップとして、川の中を主とした取組から、流域の農地や緑地も視野に入れた「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」へと視点と拡大し、数力での活力ある地域づくりを支える事業を展開しています。現在、全国各地で生態系ネットワーク形成事業が進められており、10箇目の取り組みエリアとして、阿賀野川・信濃川流域を包含した越後平野が選定されました。 越後平野は、長野・山梨・埼玉・新潟の4県にまたがる河川で、阿賀野川と信濃川が367kmと日本一長い河川と、阿賀野川と信濃川が210kmと長い河川とを有するとともに、ラムサール条約に登録されている佐渡・龍道をはじめ、福島県、鳥取県など大小多数の湖が点在する国内有数の水辺豊かな地域です。ハクチョウ越冬地や川と湖といった大型水鳥の国内有数の越冬地としても知られており、信濃川・阿賀野川の河川流域、福島県、龍道などの高水地、それを取り囲む周辺の水田地帯は、彼らの重要な越冬地となっています。また、野生水鳥の取組を進める位置から選定したトキの産卵地も数箇所あり、今後産卵数が増加し、本州への本格的な分散が期待され、その受け皿としての役割も期待されます。 このように、越後平野の河川や湖、水田といった多様な環境は、多くの希少な水鳥、魚類、ほたて、河川魚、鳥類、昆虫類の生息地や繁殖地として重要な生態系環境とするとともに、市民にとっても憩いや産生の場として重要な役割を果たしてきました。また、これらの環境は生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の機能を持つことから、近年多発しているゲリラ豪雨による洪水等の災害を防ぐ役割も果たしている。流域全体の一体性を高めることが期待されています。生物多様性の保全、再生とともに、人々の憩いや産し、自然資本を活かした地域振興の創出・育成、流域治水などの観点から、越後平野の河川や湖、水田等を保全・活用していくための一つの手段として、今後、生態系ネットワーク形成を図ることの意義が益々高まることが期待されます。 この全体構想は、越後平野においてガン類・ハクチョウ類・トキを指標種として生態系ネットワークを形成するために、基盤となる生息環境・生育環境・繁殖環境を活かした地域の活性化という2つの基本方針と、短期目標・中期目標・到達目標の3つの時間軸に沿った目標を定め、それに向けた取組の考え方と推進体制を示しています。この中で示した全体構想のもとに、さまざまな主体の参加と連携・協働により生態系ネットワーク形成が進み、越後平野のさらなる自然環境の保全とともに、その恵みを活かした社会を構築し、将来に引き継いでいくことを期待します。 令和4年 月 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会 会 長 関島 恒夫（新潟大学農学部教授）  1
--	---	---

○越後平野における生態系ネットワークの方針・目標

基本理念

越後平野の多様な主体との連携・協働のもと、広域な生態系ネットワークを形成し、様々な自然の恵みを活かした魅力向上の取組を通じて、越後平野の地域振興を図ります。

越後平野におけるガン類・ハクチョウ類・トキが舞う
地域のにぎわいを目指して

基本方針

越後平野において、河川、潟、水田、森林などの環境の生物多様性の保全および持続可能な利用のため、多様な主体が連携・協働し、生態系ネットワークの形成を推進するとともに、自然の価値や魅力を活かした地域の活性化を図ります。

基本方針 1

生態系ネットワークの
基盤となる水辺をはじめとした
環境の保全・再生

基本方針 2

良好な水辺等の環境を活かした
地域の活性化

目標

生態系ネットワークの形成には長期的視点を持った取組が必要です。そこで、生物多様性条約COP15で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」をはじめとした、多くの関連する計画の目標となっている2050年を、到達目標として設けます。また、本計画に基づく取組の進捗・到達状況を段階的に把握するため、2020年の状況を基準とし、2025年を短期目標年、2030年を中期目標年として設定します。

到達目標（2050年）

越後平野全域において、生態系ネットワーク形成によってもたらされる恵みにより、持続可能で豊かさを実感できる、安心・安全な地域が実現されるとともに、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが舞い降りる美しい河川、潟、水田などの水辺が日常の風景であり続けることが、越後平野で暮らす人々の誇りとなっている。

中期目標（2030年）

行動計画に基づいて、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが生息する水辺の保全・再生に必要な取組が実施・推進され、生態系ネットワークの形成が進みつつある。多様な担い手の連携と協働により、生態系ネットワークを活かした地域づくりも成果を上げつつある。

短期目標（2025年）

指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが生息する水辺の保全・再生に必要な取り組みを検討・整理し、生態系ネットワークの形成に向けた流域の多様な主体との連携・協働体制の整備、取組機運の向上を図る。あわせて、指標種が生息する水辺を活かした地域づくりの取り組みが検討・試行されている。

○取組イメージ

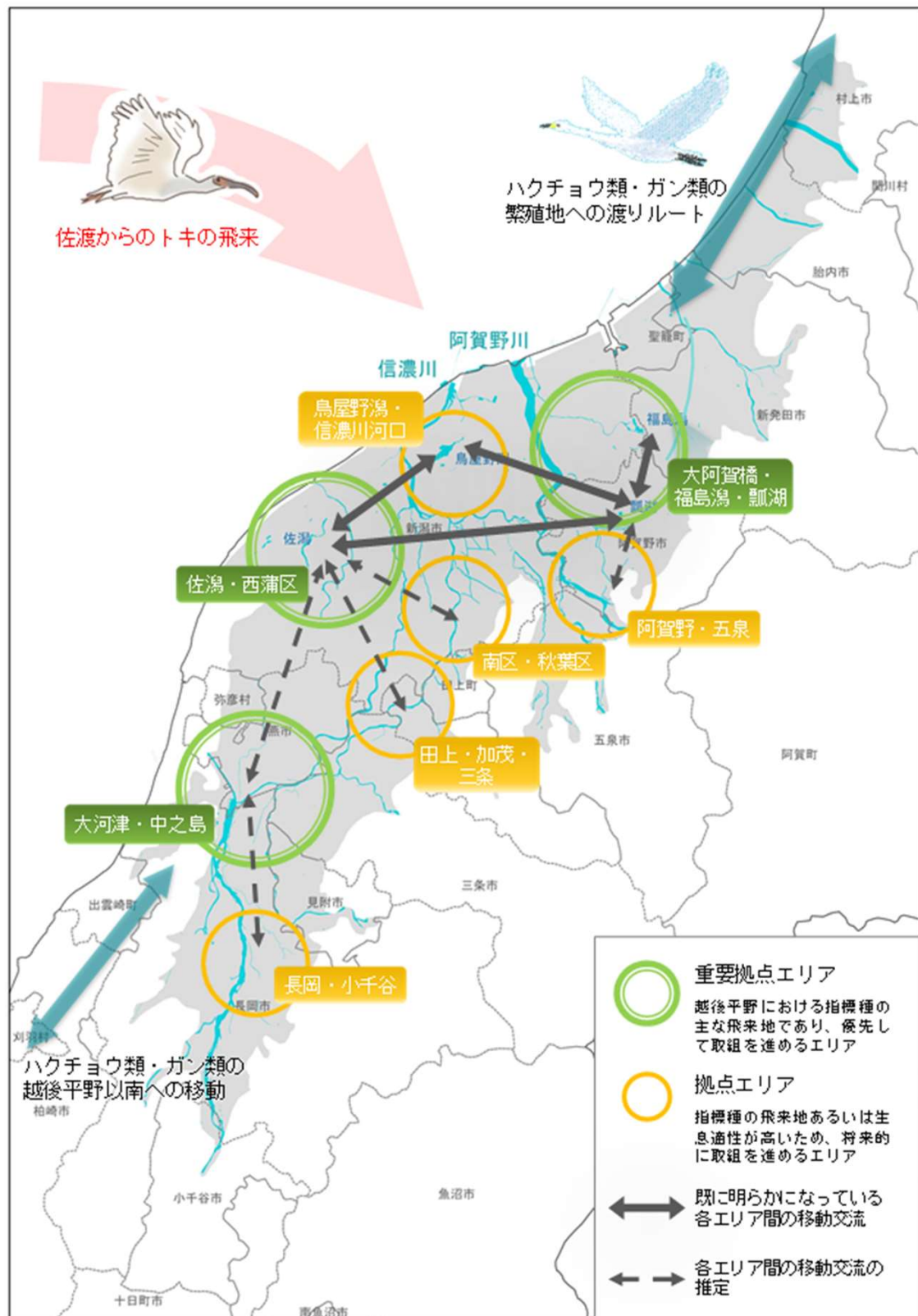
以下に、短期目標から到達目標までを通した取組イメージを挙げました。各取組イメージは今後策定予定の「行動計画」の検討材料として利用することを想定しています。

生息環境に関する 取組イメージ

- 現状把握・計画
- 河川における生息環境整備
- 潟池における生息環境整備
- 農地における生息環境整備
- 林地における生息環境整備
- 流域一体となった生息環境整備
- 人為的要因による個体への悪影響の緩和
- 指標種と共生できる社会環境づくり
- 外来種対策

地域振興・地域活性化に関する 取組イメージ

- 現状把握・効果検証
- 理解と関心の向上・環境に係る「財産」としての価値の共有
- 多様な主体参加の仕組みづくり
- ガン類・ハクチョウ類・トキをシンボルとした地域振興・経済活性化の推進支援
- プロジェクトの継続・発展に向けた仕掛けづくり
- 国内外の計画や目標との連携・連動



越後平野における生態系ネットワーク構想図

エリア間の移動交流やつながりを維持しつつ、重要拠点エリアから取組を進め、中長期的に拠点エリアへの取組へと広げていくことで、拠点エリアー重要拠点エリア間の連結性を高め、越後平野全体の生態系ネットワークの形成・強化を図るもの。